

技術組織のこれまでとこれから — 熊本大学の事例紹介 —

熊本大学 技術部

技術専門員・技術部長 上村 実也

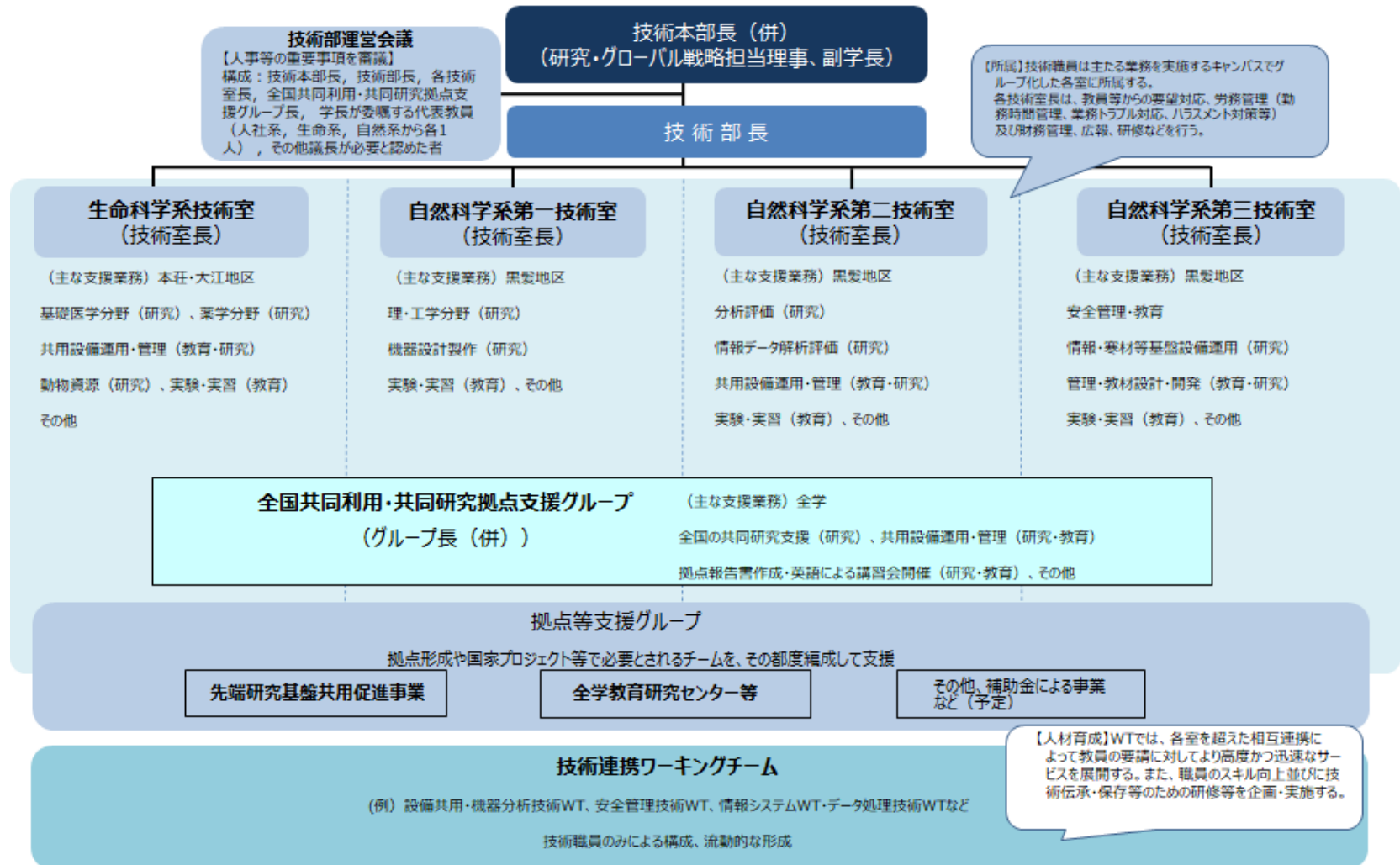
(話題)

- 1 熊本大学技術部の概要
- 2 組織化の目的と経緯
- 3 活躍促進に向けた改組

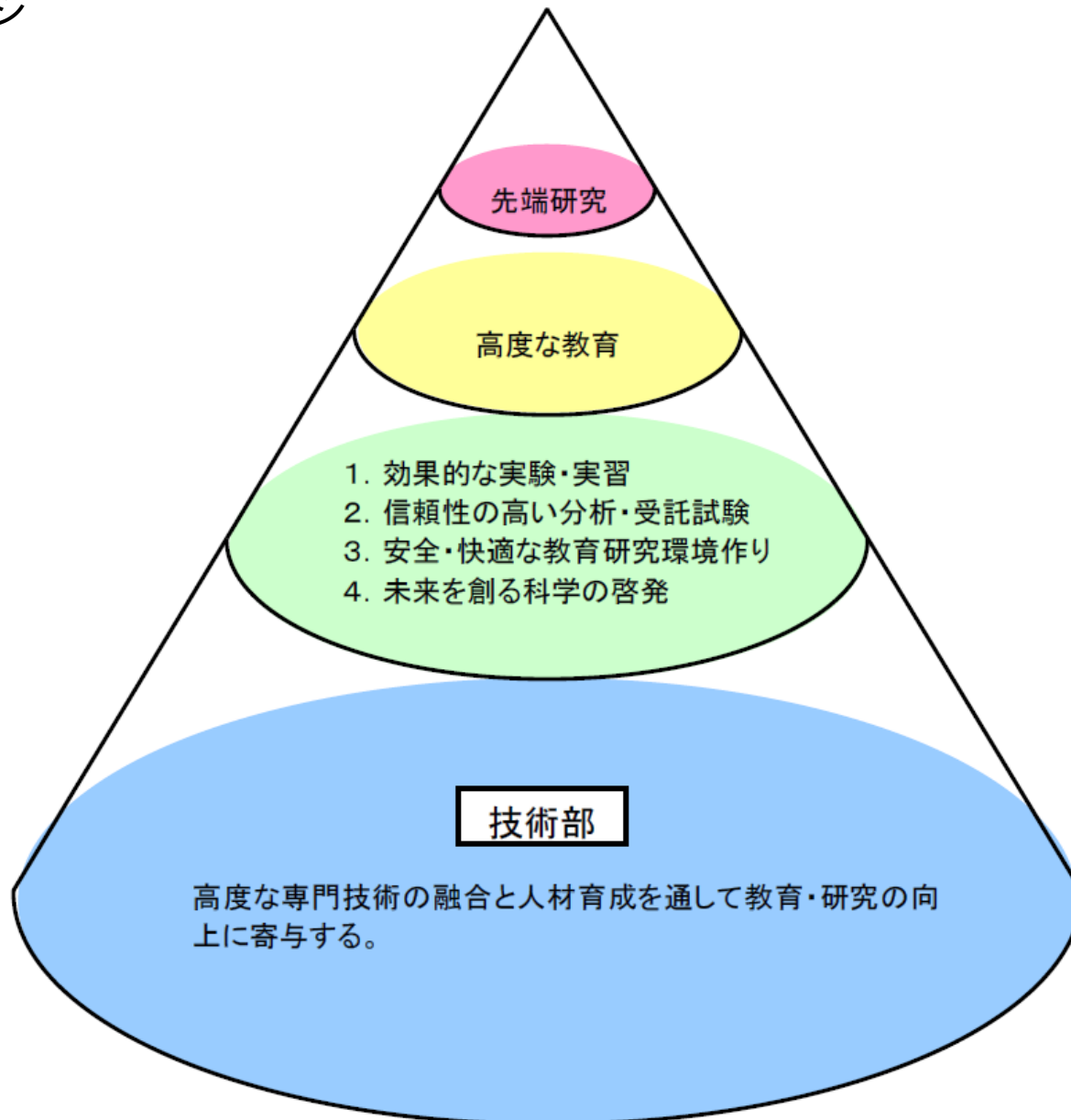
熊本大学技術部の概要

組織体制

熊本大学 技術部



設置目的のイメージ



ONE TEAM

【第4期中期目標】

地域と世界に開かれ、共創を通じて社会に貢献する教育研究拠点大学

第3期中期目標ビジョン「先端研究設備サポートセンター（仮称）」

⇒ 「技術部」コアファシリティの推進と研究教育支援の強化



全学の教育・研究力の強化・促進

研究環境の改善, 研究支援スタッフの活性化

教育研究組織 各部局・センター等

協働・相談



共用設備の利用促進, 研究・教育への参画
サービスの高度化・効率化・迅速化

協働・相談



事務的サポート

技術組織「技術部」

「組織」的に、専門技術と広い視野で
部局横断的に貢献

研究教育支援スタッフの活性化

- 1 実験実習の教育効果の向上
- 2 コアファシリティの推進, 研究への参画
- 3 学内LAN, 寒材等基盤設備の安定稼働
- 4 安全に係る指導・環境管理
- 5 出前授業等による地域貢献
- 6 非常・災害時の復旧, 調査, 改善

連携・コーディネート

生命科学系技術室
自然科学系第一技術室
自然科学系第二技術室
自然科学系第三技術室

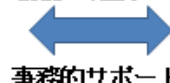
業務・責任の明確化
研究基盤（設備・人材）
の強化

技術「組織」による業
務の高度化・効率化・
迅速化

技術的サポート



協働・相談



事務的サポート

事務組織

監査室, 経営企画本部,
研究・産学連携部, 教
育研究支援部, 学生支
援部, 病院事務部, 総
務部, 財務部, 施設部

機動性及び機能性の向上・
業務の効率化

第2弾

(R2年度)

研究教育支援体制の充実・強化

ONE TEAM !

第1弾

(H23年度)



会議

A. 技術部運営会議

技術部の業務、予算、技術職員の人材育成・人事制度、技術職員の採用・配置、その他必要な事項については、「技術部運営会議」において審議する。

また、技術職員の人事評価・キャリアパスについては、このための検討WGを設置して、現状の課題の分析と改善案を作成させ、適宜、技術部運営会議で審議する。

(随時開催、技術部長)

B. 技術室長会議

技術部各技術室間の情報共有及び連携強化等のため、技術部長及び各技術室長で構成する「技術室長会議」を設置した。人材育成・キャリアパス検討WG、職員の採用、研修WT、広報WT、コアファシリティ推進WTのメンバー選出及び活動内容及及び職員の再配置・採用計画等人事について検討する。

定期(毎月)開催、担当 技術部長

C. 技術室長等会議

技術部の新たな課題解決及び意見交換を行うために、技術部長、各技術室長、全国共同利用・共同研究利用拠点支援グループ長及び各技術室長の業務を補佐する者「副技術室長(仮)」で構成する「技術室長等会議」を設置した。主たる専門技術業務以外の業務への対応等について意見交換を行う。

(随時開催、担当 技術部長)

D. 各WT会議

技術部に業務内容等でそれぞれにグループ化した専門技術WT及び技術部共通の研修WT、広報WT、コアファシリティ推進WTを設置した。各WTでは、それぞれの課題解決に向けた検討を行い、研修の企画・実施、広報活動、共用機器利用促進のための活動を展開する。

(随時開催、担当 各WTリーダー)

大学の目標

熊本大学イニシアティブ 2030

Kumamoto University Initiative 2030



【第4期中期目標】

**地域と世界に開かれ、共創を通じて社会に貢献する
教育研究拠点大学**

【技術部の目標】

- 1 社会との共創〔SDGs目標:11,14,15〕**
- 2 教育〔SDGs目標:4〕**
- 3 研究〔SDGs目標:3,9〕**
- 4 その他業務運営に関する重要事項
〔SDGs目標:4,8,11〕**

1 社会との共創〔SDGs目標:11,14,15〕

- (1) 公開講座、出前授業、科学啓発活動等を教員と協働して、または、技術部の事業として推進する。
- (2) 企業等からの技術相談を熊本創生推進機構及び関係教員と連携して推進する。
- (3) 共同研究（分担を含む）やTLO事業等を推進する。
- (4) 企業等からの技術相談及び委託分析・製作等を推進する。
- (5) オープンイノベーションセンター等の運営及び技術相談、依頼加工、依頼分析、技術指導等を推進する。
- (6) 優れた職員の確保に向けて、産学連携に対するインセンティブを、該当する業務を実施した職員に付与する。

2 教育〔SDGs目標:4〕

- (1) 教員と協働して、教育効果を高めるためのシステム開発、運用、並びに、高度な専門技術、数理・データサイエンス・AI など新たな技術の獲得によって、教育支援を推進する。
- (2) グローバル化に対応できる語学力の向上を図る。

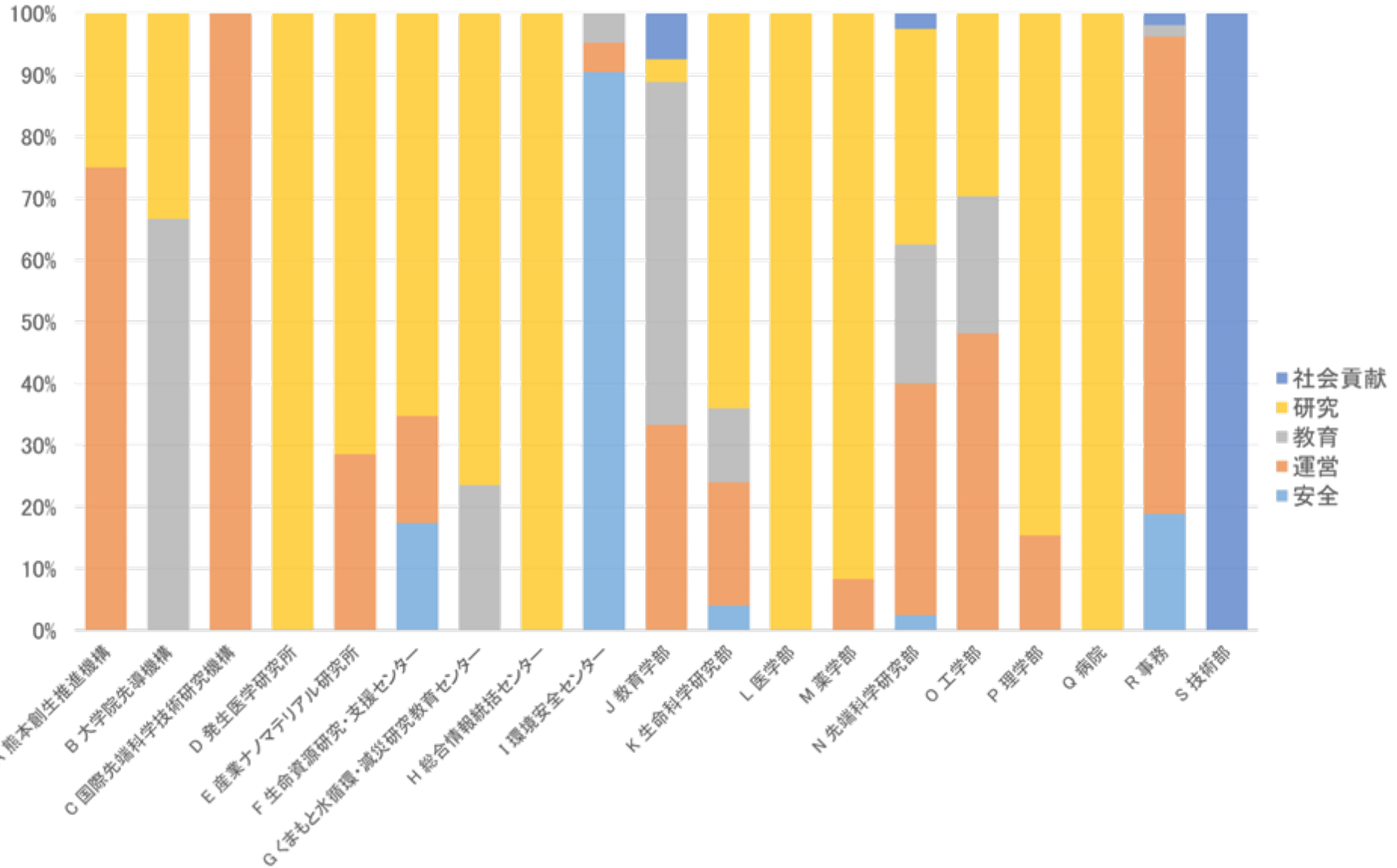
3 研究〔SDGs目標：3,9〕

- (1) 国際共同研究・共同利用拠点をはじめ大学の特色・強みの分野への研究支援の拡充を推進する。
- (2) 研究データ統合・解析システム（オープンサイエンス）構築・運用及び情報ネットワークの強化を推進する。
- (3) 分野融合型研究や学際領域の研究に対して、多様な専門技術及びチーム力を活かしたサポートを強化する。
- (4) 教員との協働による研究及び外部資金の獲得による職員自らの研究を推進する。

4 その他業務運営に関する重要事項〔SDGs目標:4,8,11〕

- (1) 技術部の組織改編を行とともにガバナンスを強化する。
- (2) 関係者間のコミュニケーション及び情報の共有を推進する。
- (3) 業務の合理化・効率化を図るとともに、最新技術の獲得を継続し技術の高度化を図る。
- (4) OJT研修、スキルアップ研修やSD研修等に参加させて、専門技術の向上をはじめ、組織のマネジメントや大学経営にも携わることができる人材を育成する。
- (5) 業務の遂行にあたって法令順守の意識高揚を図る。
- (6) 本学の経営に関して関心を持ち、技術的側面から課題解決の提案を行えるよう研究戦略会議等の会議体に参画する。また、継続して全学的視点で考えることができる人材を育成する。
- (7) 共同利用施設・設備の管理・運用を行う中で、常に課題発見に務め、現場の視点による戦略的な整備・共用の対策を提案し、機能強化を推進する。
- (8) 学内情報ネットワークのセキュリティー強化、安定運用の向上を推進する。
- (9) DX構想をはじめ各種システム構築案の実現のための情報技術の提供を拡充する。
- (10) キャンパスミュージアム構想を実現させるために無人インフォメーションシステム等の設置のためのICT技術を提供する。
- (11) 設備マスタープランを実効性のあるものに変えるため、技術的側面からの助言や提案ができる体制を構築する。
- (12) 学位や専門資格を有する職員のモチベーション維持・向上のための高度技術専門員や技術URA等の創設を含むキャリアパスの構築および評価・選考方法を確立する。
- (13) 年齢、性別、経験年数に関わらず、当該職に求める能力に基づく選考採用及び昇任又は手当等の充実に努める。
- (14) 技術部運営会議において、業務の遂行状況及び中期目標の達成状況を確認・評価する。評価結果は、大学評価会議等に報告する。
- (15) 年度毎の評価に基づいて次年度の目標を策定し、PDCAサイクルにより持続的な研究支援体制の強化に努める。

令和3年度業務依頼_各業務の割合



組織の経緯

年度	内容
～ 1997	工学部技官会（研修会、組織あり方検討会）
1998	工学部技術部発足
～ 2009	KEK全国技術職員シンポジウムにおける情報収集
2011	全国総合技術研究会の開催
2011	技術組織の将来を考える懇談会（有志）
2012	研究系技術職員改組案の学長，理事への説明
2013	RU22 Bメニューにて研究サポート推進室を設置
2016-2018	設備サポートセンター設置計画
2017	研究推進会議 設備共用化推進検討WG
2017	先端研究設備共用促進事業（生命科学系）採択
2018	先端研究設備共用促進事業（自然科学系）採択
2018	技術職員への説明
2018	平成30年度第2回研究推進会議にて基本的方針を了承
2017-2019	技術組織検討PTにて具体的事項の検討・事務部との協議、技術職員・部局長への説明（黒髪、本荘キャンパス毎）、大学戦略会議、役員会で審議、規則整備、人事異動案策定
2020	技術部発足

技術部運営に関する職員からの声

1 良かったと思うこと。

- (1) 技術職員同士の仲間意識が高まった。
- (2) 業務内容を聞いてもらえるようになった。
- (3) 評価方法が一本化された。
- (4) 新たな職（技術主任）が導入された。

2 良くなかったと思うこと。

- (1) マネジメント体制の変更によって情報共有や意見集約等に混乱を生じた。
- (2) 従来 of 所属部局との関係性が低下した。
- (3) 従来行っていなかった業務や会議が増えた。

意識改革

1 教員の意識改革 (Sharing)

- (1) 設備は、国税で購入したものであり、大学・社会**共通の資源**である。
- (2) 設備の共用化によって、新たな**共同研究**への展開が期待できる。
- (3) 共用化は受益者や大学の**経営改善**に繋がる。
- (4) 設備や技術系職員は**大学共通の研究基盤**である。

2 技術系職員の意識改革 (Passive → Active)

- (1) 技術系職員は**大学**に雇用されている。
- (2) 大学が求めている技術系職員像を**中期目標**等から読み取る。
- (3) 業務の**目的**を理解し、**達成目標・計画**を立てて**行動**する。
- (4) 自己の持つスキルをフルに発揮する。
- (5) より一層**高度なスキル** (必要なスキルを有する者との**連携**) で、**迅速**に対応する。

働き方改革

(キーワード)

国際化, 学際化, 機能強化

人材育成, 社会連携, 少子化, 学力, 常識

高度化, 迅速化, 合理化, 連携

評価, キャリアパス, 組織, PDCAサイクル

個人の頑張りだけでは限界



組織的な取り組みを展開

「こうなればいいのに」と願うだけでは、決して世界は変わらない。

なりゆきに身を任せてはいないか。

現実に立ち向かっているか。

自分が信じた道貫き通しているか。

みちのりは険しく、正直、きつい。

けれど、自ら抱いた夢を実現するのは、

他の誰かじゃなく、自分でありたい。

私たちは知っている。

その熱意こそが、世界を変える原動力となるということ。

**どうなるかじゃない、
どうするかだ。**

モチベーションUPを感じた時

- 1 新しい仕事やうまくいかない事を前進できた。
- 2 学生が無事に卒業、修了した。
- 3 携わった仕事が、論文等の研究成果になった。

これまでの多くの人・仕事との出会い
に感謝しています。

皆様方の益々のご活躍とご健勝を祈って
います。

ありがとうございました。